

# 加賀検定

## 第8回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

2020年12月20日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 和服が中心の時代、正月や祝い事などのハレの日には、男性や女性の多くは（ ）の付いた絹織物の長着物を着た。  
①紐 ②家紋 ③飾りフサ ④帯揚げ
- 2 弥生時代から日本人の主食は（ ）であったが、戦後においても、農家などの貧しい家庭では、腹一杯になるほどは食べられなかった時代が続いた。  
①麦飯 ②赤飯 ③米飯 ④団子
- 3 昔の農家の間取りは長方形が基本で、仏壇を設置した部屋を（ ）と呼んだ。  
①ニワ ②ナンド ③デイ ④ツシ
- 4 加賀市の面積は306 m<sup>2</sup>キロメートル、周囲は98.5 kmで、石川県の最（ ）端に位置している。  
①東北 ②東南 ③西北 ④西南
- 5 江沼平野は、大聖寺川や動橋川などから運ばれてきた土砂が堆積したところで、こうしたところは（ ）平野と呼ばれている。  
①沖積<sup>ちゅうせき</sup> ②堆積<sup>たいせき</sup> ③洪積<sup>こうせき</sup> ④縄文<sup>じょうもん</sup>
- 6 「江沼三山」の一つ（ ）では、毎年5月初旬、中腹から山頂にかけて咲くシヤクナゲの花を見るための登山客で賑わう。  
①大日山 ②富士写ヶ岳 ③鞍掛山 ④寺尾山
- 7 山中温泉の県民の森へ向かう途中、荒谷町にある（ ）は、高さは約30mで、大小五段からなる見ごたえのある滝で、石川三名瀑の一つとなっている。  
①鶴ヶ滝 ②華巖の滝 ③垂水滝 ④姥ヶ滝
- 8 加賀市には、豊かな自然が多く残っている。中でも県境の天然記念物（ ）にはアカテガニなどの珍しい生き物が生息している。  
①錦城山 ②鹿島の森 ③鴨池 ④柴山瀉

- 9 江沼神社長流亭は、大聖寺藩3代藩主（ ）の休憩所として建てられたもので、現在、国の重要文化財になっている。
- ①前田利治 ②前田利明 ③前田利直 ④前田利之
- 10 大聖寺藩医（ ）は、幕末、大坂で緒方洪庵の適塾<sup>てきじゆく</sup>に学び塾頭となった。その後、江沼病院の前身である金沢病院大聖寺分院の創設に力を尽した。
- ①稲坂謙吉 ②太田錦城 ③渡辺卯三郎 ④梅田五月
- 11 大聖寺で加州松島社を創業した飛鳥井清は、（ ）を職工長にして、日本で最初の鉛筆製造をおこなった。
- ①浅井一毫<sup>いちもう</sup> ②石川嶂<sup>たかし</sup> ③柿沢理平<sup>りへい</sup> ④永楽和全<sup>えいらくわぜん</sup>
- 12 桑原町出身の生理学者（ ）は、苦学をして東京帝大の医学部に学び電気生理学を専攻した。後に、脳波・色覚の研究でノーベル賞候補にもなった。
- ①稲坂謙吉 ②馬嶋健吉 ③本川弘一 ④黒川良安
- 13 加賀市出身の政治家（ ）は、戦後の食料難を憂い、干拓<sup>かいこん</sup>や開墾を奨励するなど、日本農業の発展と向上に尽力し、昭和40年には農林大臣となった。
- ①平出喜三郎 ②広海二三郎 ③竹田儀一 ④坂田英一
- 14 今年、北陸新幹線敦賀延伸に向けて、新たな観光スポットとして再整備された（ ）には、白山の眺望を楽しめる物見櫓<sup>ものみやぐら</sup>や展望デッキなどが設けられた。
- ①加賀市中央公園 ②手塚山公園 ③橋立自然公園 ④錦城山公園
- 15 加賀市のおもてなしご当地グルメとして開発された「加賀カニごはん」は、（ ）を用いた人気料理で、現在、市内5店舗でそれぞれ独自メニューを提供している。
- ①香箱ガニ ②加能ガニ ③アカテガニ ④越前ガニ
- 16 加賀市の（ ）遺跡からは、旧石器時代のものとされる珪質岩<sup>けいしつがん</sup>等の硬い石材で作られた石刃<sup>せきじん</sup>や搔器<sup>そうき</sup>が見つかっている。
- ①藤の木 ②柴山出村 ③宮地向山 ④片山津玉造
- 17 柴山水底貝塚からは、無数の貝殻のほか、県内最古の（ ）や関西の影響を受けた土器約200点が出土した。
- ①甲冑<sup>かっちゆう</sup> ②人骨 ③耳飾り ④刀

- 18 ( ) 遺跡からは県内でも珍しい菱形の注口土器や呪術用具とも考えられる異形土製品が出土した。  
 ①橋立大野山 ②永井 ③潮津上出 ④横北
- 19 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂イカリ山13号墳は、全長( ) mを越す市内最大の前方後円墳で、江沼郡全体を治めた豪族の墳墓と推察されている。  
 ① 30 ② 50 ③ 70 ④ 150
- 20 平安後期の書である『白山之記』には、江沼郡域における白山信仰の拠点として、柏野寺・温泉寺・( )・小野坂寺・大聖寺の5つの寺院が建立されたことが記載されている。  
 ①愛染寺 ②栄谷寺 ③温谷寺 ④極楽寺
- 21 律令国家では、中央と地方の連絡が円滑になされるために、官道とその中継機関として「駅」(うまや)が整備され、江沼郡域では朝倉駅と( )が設置された。  
 ①作見駅 ②篠原駅 ③潮津駅 ④動橋駅
- 22 寿永2年の篠原での源平合戦の際に、平氏の武将斉藤実盛が白髪を染めるときに使用した鏡を投げ入れたと伝える池が( )の「鏡の池」である。  
 ①小塩辻町 ②野田町 ③深田町 ④黒崎町
- 23 建武2年、( )に呼応した越中の前守護の子名越時兼の軍勢の南下を、「大聖寺ノ城」に楯籠もる狩野一族が越前からの援軍を得て阻止し、潰滅させた。  
 ①中先代の乱 ②応仁の乱 ③承久の乱 ④江沼の乱
- 24 中世の荘園のうち、( )・山代庄本郷・富墓庄は、京都の菅原道真を祀る北野天満宮の社領であり、加賀国には7ヶ所、そのうち江沼郡には3ヶ所が集中していた。  
 ①額田庄 ②奈多庄 ③熊坂庄 ④福田庄
- 25 永正年間の頃、越前側の( )と、加賀の一向一揆軍がたびたび衝突を起こしたが、九頭竜川畔の戦いで、一揆軍に加担していた加賀の大土豪、黒瀬覚道らは惨敗した。  
 ①朝倉宗滴 ②織田信長 ③柴田勝家 ④前田利家
- 26 蓮如の次男蓮乗の河北郡二俣本泉寺、3男蓮綱の能美郡波佐谷松岡寺、4男蓮誓の江沼郡山田( )を「加州三ヶ寺」、その3兄弟を「三山の大坊主」と称した。  
 ①願成寺 ②光教寺 ③願証寺 ④本善寺

- 27 明治4年、大聖寺藩で起きた「みの虫一揆」では、首謀者8名が逮捕されたが、このうち、分校村の（ ）だけが翌年獄死した。  
 ①中谷宇平 ②新家理与門 ③開田善助 ④裏谷重蔵
- 28 飯田屋八郎右衛門は、（ ）の画工で、その技法は赤と金彩による細密な「赤絵金欄手」を大成し、「八郎手」と呼ばれた。  
 ①宮本屋窯 ②木崎窯 ③吉田屋窯 ④若杉窯
- 29 石川嶂は、明治2年に琵琶湖に日本最初の湖上汽船一番丸を就航させた後、金沢・大聖寺両藩の出資による（ ）を設立した。  
 ①八幡製鉄所 ②神戸製鋼所 ③中山製鋼所 ④兵庫製鉄所
- 30 篠原藤平は羽二重・縮緬等の製織法を改良し、大聖寺絹の発展を図った。これらの業績により、昭和4年、（ ）境内に藤平を顕彰する紀功碑が建立された。  
 ①加賀神明宮 ②実性院 ③江沼神社 ④水守神社
- 31 大聖寺出身の病理学者桂田富士郎は、明治37年、風土病の原因ともなっていた（ ）を発見し世界的に注目された。  
 ①赤痢菌 ②ジャアスターゼ ③日本住血吸虫 ④コレラ菌
- 32 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年4月に越前北庄城主堀秀治の越後（新潟県）春日山への移封に伴い、同国の（ ）に移動した。  
 ①糸魚川 ②本庄 ③新発田 ④高田
- 33 大聖寺城主の山口玄蕃宗永父子は、慶長5年8月に金沢城主の前田利長と戦って敗れて自決し、家臣約（ ）を失ったと伝えられる。  
 ① 600人 ② 800人 ③ 1,000人 ④ 1,200人
- 34 大聖寺藩主の在任期間は、5代前田利直の42か年や2代前田利明の33か年を除けば、短期間の藩主が多かった。とくに、13代前田利行の在任期間はわずか（ ）であった。  
 ① 5か月 ② 7か月 ③ 9か月 ④ 11か月
- 35 大聖寺新田藩祖前田利昌（采女）は、宝永6年に上野寛永寺で行われた将軍徳川綱吉の法会において、御馳走役の大和柳本藩主（ ）を殺害した。  
 ①前田玄以 ②織田秀親 ③石川義孝 ④柳生宗矩

36 大聖寺藩の製茶業は、2代前田利明が寛文年間に山城・近江両国から茶の実を購入して領内の村々に配分したのが始まりで、江戸後期までは（ ）が最大の生産地であった。

- ①山代村 ②保賀村 ③打越村 ④串村

37 大聖寺藩主（ ）は、延宝4年に中田村五郎兵衛ごろうべえと足軽の栗村茂右衛門あしがる くりむらしげえもんを河北郡二俣村ふたまたむらに派遣し、御料紙ごりょうがみや日常紙の製法を習得させた。

- ①前田利治としはる ②前田利明としあき ③前田利直としなお ④前田利章としあきら

38 大聖寺藩の十村とむら（大庄屋）には、十村組を有する組付十村くみつきとむらと、それらを監視する（ ）の2種があり、組付十村はくわやくまい鋤役米（鋤米）という役料が支給された。

- ①目付十村 ②脇指十村 ③苗字十村 ④頭振十村

39 大聖寺藩主は、参勤交代さんきんこうたいで下街道しもかいどうを利用した場合、必ず金沢城下に宿泊して金沢城へ出向き、藩主や重臣あいさつに挨拶するとともに宝円寺ほうえんじや（ ）さんけいを参詣した。

- ①芳春院 ②松月寺 ③長国寺 ④天徳院

40 加賀藩主3代前田利常は、寛永2年に郡奉行吉田伊織の家来久世徳左衛門に命じ、別所村領の大聖寺川から水を取り入れて山代新村に至る（ ）用水を完成させた。

- ①矢田野 ②市之瀬 ③御水道 ④鹿ヶ鼻

41 松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の途中、元禄2年に山中温泉の湯宿泉屋とうりゅうに逗留したとき、泉屋の当主（ ）しんせきに与えた真蹟が現在も残されている。

- ①菊之助 ②佐久之助 ③久米之助 ④桃之助

42 加賀藩主3代前田利常まえだとしつねの夫人天徳院は、元和5年に婚礼調度品のひとつと伝えられている「蒔絵角赤手筥まきえすみあかてばこ」を（ ）に寄進した。

- ①愛宕神社 ②山下神社 ③江沼神社 ④菅生石部神社

43 大聖寺西端の錦城山には、南北朝時代から元和元年まで数度に亘って大聖寺城が設置されており、その歴史的な文献は、南北朝時代の（ ）が初見である。

- ①平家物語 ②太平記 ③梅松論 ④源平盛衰記

44 錦城小学校に隣接する江沼神社は、大聖寺藩祖前田利治と（ ）まつを祀っており、市指定文化財の能面や能装束を所蔵している。

- ①前田利家 ②菅原道真 ③前田利常 ④藤原道長

- 45 大聖寺藩の十村を務めた（ ）は、宝永6年に農事全般の体験や知識を自身の子孫に伝えるために遺書の形で『農事遺書』(全5巻)を著した。  
①堀野新四郎 ②荒森宗左衛門 ③鹿野小四郎 ④橋本源左衛門
- 46 明治2年7月に発足した「大聖寺県」は、その年の11月に（ ）と合併し、僅か4ヶ月間で消滅した。  
①金沢県 ②小松県 ③石川県 ④美川県
- 47 大聖寺藩は、明治3年、（ ）人のキリシタンを預かり、庄兵衛谷鉄砲場の長屋に収容した。  
① 15 ② 25 ③ 35 ④ 50
- 48 チェーンやホイールの生産では日本のトップクラスである「大同工業株式会社」は、昭和8年に設立された（ ）チェーン株式会社を前身とする。  
①山中 ②大聖寺 ③国益 ④江沼
- 49 江沼郡では明治44年、（ ）たちが中心となって、多額の出資をして「大聖寺川水力発電株式会社」を設立した。  
①旅館経営者 ②北前船主 ③機業家 ④漆器業者
- 50 江戸時代より、大聖寺は絹織物の主産地で知られたが、特に、明治期以降、大聖寺の（ ）は、真っ白で肌触りがよく全国的に人気があった。  
①羽二重 ②紬<sup>つむぎ</sup> ③縮緬<sup>ちりめん</sup> ④友禅
- 51 昭和33年1月、江沼郡の大聖寺町や山代町、片山津町など（ ）ヶ町村が合併し、(旧)加賀市が誕生した。  
① 7 ② 8 ③ 9 ④ 10
- 52 明治22年、大聖寺の初代町長となった（ ）は、その後、衆議院選挙に当選し、国会議員となって活躍した。  
①梅田五月 ②河崎 時 ③前田 幹 ④岩崎省三
- 53 加賀市は北陸最大の（ ）の産地として知られ、およそ50戸の農家が栽培し、関西の市場にも出荷し、味や品質で高い評価を得ている。  
①トマト ②ニンジン ③キュウリ ④ブロッコリー

- 54 JF いしかわの 2019 版の統計によると、石川県全体の漁船総数 3,884 隻に対して、加賀市の漁船数は（ ）隻となっている。
- ① 87      ② 149      ③ 508      ④ 1,215

- 55 加賀商工会議所は昭和 44 年に初代会頭に（ ）を選任し発足した。以後、現在まで、およそ半世紀にわたって地域経済の発展に寄与してきた。
- ①矢田松太郎      ②新家熊吉      ③山田泰三      ④吉田豊彦

専門テーマ「中谷宇吉郎」

- 56 加賀市片山津温泉出身の物理学者 中谷宇吉郎博士は、世界ではじめて人工雪の結晶をつくることに成功し、昭和 16 年には（ ）を受賞した。
- ①ノーベル賞      ②日本芸術院賞      ③日本学士院賞      ④文化勲章

- 57 中谷宇吉郎は（ ）小学校の卒業生で、同校には宇吉郎が小学 5 年生のときに描いた竹の絵が所蔵されていたが、平成 29 年、その絵は中谷宇吉郎雪の科学館に寄託された。
- ①動橋      ②片山津      ③潮津      ④錦城

- 58 中谷宇吉郎は、東京帝国大学理学部物理学科で（ ）に師事し、その後、理化学研究所においても、彼のもとで電気火花の実験に従事した。
- ①志賀 潔      ②高峰讓吉      ③寺田寅彦      ④長岡半太郎

- 59 加賀市潮津町に建つ「中谷宇吉郎雪の科学館」の建物を設計したのは、世界的な建築家の（ ）である。
- ①谷口吉生      ②磯崎 新      ③安藤忠雄      ④黒川紀章

- 60 中谷宇吉郎の弟、中谷治宇二郎は（ ）の研究者として知られる。
- ①考古学      ②脳波      ③伝染病      ④植物